



ほけんだより

8月号



平成27年8月3日

社会福祉法人三心会

織笠保育園

猛暑が続いています。子どもたちは、暑さの中でも夢中になって遊ぶので、水分の補給には十分に気を配りましょう。また、お盆などに遠出される方も多いと思います。体調やけがに気を付けながら、楽しい夏の思い出をつくりましょう。

手足口病

乳幼児の間で流行するウイルス性の夏かぜの一種で、飛沫感染します。手足や口の中に水疱や赤い湿疹が出るのが特徴で、ひざやお尻に出ることもあります。症状は3～5日で治まりますが、その後も2～4週間は便からウイルスが出るので、周囲の人に感染しないようにオムツ交換の時は手洗いをしっかりと行いましょう。登園は、熱がなく、普通に食事ができること（解熱後1日以上経過）口の中に水疱ができると、破れて口内炎になり、食欲が落ちます。



口の中に水ぼうがれている間、お子さまに食欲がなければ、水分補給さえしっかり行えば大丈夫です。食欲があるようなら、冷たいスープなどを与えてみましょう。

寝冷えに 気を付けましょう

クーラーや扇風機を使用する時は、タイマーなどを利用し、冷やし過ぎなどによる寝冷えに気を付けましょう。夜間蒸し暑かったり、肌寒かったりと気温の変化が著しいので風邪などをひかないように体調管理には十分気をつけましょう。



とびひ

皮膚のトラブル（虫刺され、あせも、ケガ）をきっかけに発病します。ブドウ球菌は常在菌で正常な皮膚や鼻孔にも住みついています。汗をかく夏になると皮膚の防御能が落ちた場所で増えて水疱やじくじくした発疹を作ります。

少し大きめのものは、抗生物質を内服することが必要です。患部を覆い接触しなければ周囲に移りません。



7月の感染症

手足口病	19名
とびひ	1名
アデノウイルス	1名

